

地域おこし協力隊の活動紹介

岡 SDGs移住定住推進課 (内線4224)

地域おこし協力隊とは三大都市圏などに住む人材を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、将来的には石巻への定住・定着を図る国の事業です。市では既に23人を委嘱し、任期終了した15人のうち、12人が市内での就労または定住に繋がっています。各隊員の活動内容などを紹介します。



隊員プロフィール

氏名 宮野 弥生
任期 令和7年7月1日から
(最大3年間)
出身地 女川町
(転入元:仙台市)
前職 養護教諭
主な活動内容
子どもや若者たちの居場所支援、女子中高生を対象としたフリースクールの運営
隊員になったきっかけ
学校に行かない選択をした子どもたちの支えになりたいという思いから

「今、困っている子どもたちを支えるために、私には何ができるのだろうか?」私が地域おこし協力隊になった理由は、他界した父の思いを繋いでいきたいと思ったからです。父は全身性アミロイドーシスという難病を患っていました。父の闘病生活から私は家族の絆や命の大切さを実感しました。

石巻は私にとって、思い出深い場所です。そのご縁が、私を若者たちの居場所である「しゅろハウス」に導いてくれました。ここは、誰もが安心して過ごせる実家のような場所です。一緒にご飯を食べて団欒しながら、子どもや若者たちが自分の人生をゆっくりと歩めるように、一人一人の思いに寄り添った活動を行っています。



石巻の隠れた名所

日本でもっともチュニジアに近い町



桃生町とチュニジアの結びつきは、1991年に国費留学生として東北大学で学んでいたアミール・アヘル氏が当時の町長宅にホームステイし、町のふれあい国際事業に参加したことがきっかけとなりました。1996年には大統領の初来日もあり、桃生町とチュニジアとの交流はより深まりました。その翌年新しくできた町道に「チュニジア通り」と命名し、そのお礼として、大理石でできたモザイクが贈られ通りの一角に設置されています。

その後チュニジアへの親善訪問が行われるなど、交流がますます盛んになり、2000年には、新しい町道に「カルタゴ通り」さらに翌年の2001年にはもう一つの町道を「ジャスミン通り」と命名し、両国の友好の象徴となっています。

桃生総合支所の1階ロビーにも、モザイク作品などチュニジアの美術品が陳列されていますので、お越しの際はぜひご覧ください。

(文化財) たんぽう

131

鹿又地区の板碑移設

石巻市教育委員会生涯学習課

みなさんは「板碑」という言葉を知っていますか。板碑とは、鎌倉時代から戦国時代にかけて、死者の追善供養や自身の生前供養(逆修)を目的に建てられた石製の供養塔です。



板碑抜き取り工事の様子

県内では約7千基の板碑が確認されており、石巻には県内最多の約2、100基が確認されています。県内で最も古い板碑は石巻のもので、石巻市域では1260年～1600年代初頭までの約350年間にわたる板碑文化が続きました。地元産の粘板岩(井内石、雄勝石)が使用されている点も石巻の板碑の特徴です。

今回、旧北上川堤防工事に伴い移設が必要になった板碑は、鹿又土手前にある4基の板碑です。関係者の協力のもと今年8月に移設工事を実施し、鹿又地区の「大巻地区農村公園」に移設されました。拓本採集や碑面の観察により、これらの板碑は1293年から1306年にかけて死者の追善供養のために建てられたこと、発掘調査を行った結果、板碑の約三分一が地面に埋没しており、過去にも移設されていたことなどが判明しました。

板碑は、道端やお寺、時には民家の敷地内など、私たちの身近な場所にみられます。普段何気なく目になっている板碑に目を向け、刻まれている文字を解読し、建てられた場所の意味を考えることで、地域の歴史を知る手掛かりになります。

板碑は身近な文化財であり、石巻の歴史を伝える「地域の宝」なのです。